

アメリカ合衆国大統領 バラク・オバマ様

私たちは、あなたがノーベル平和賞を受賞されたことにつき、心からお祝いのご挨拶を送ります。あなたは大統領就任以来、アメリカが「唯一の核兵器を使用した国として行動する道義的責任」に言及され、「核兵器のない世界」をつくり出す希望を説いてこられました。核兵器による被爆国日本の一員である私たちは、あなたの姿勢が世界平和構築の方向にむかうとして評価されたことに深く共感し、このたびの日本ご訪問にあたってその思いを表明いたします。

私たちは、今からおよそ 100 年前の 1911 年、女性自身による女性の自立と解放を求める雑誌『青鞥 (SEITO)』を発刊、「元始、女性は太陽であった」と宣言した女性思想家平塚らいてう (HIRATSUKA RAICHO) を記念し、彼女が遺した精神を現代に受け継ぐと活動する団体です。その中心課題の一つが世界平和の構築です。

彼女は第一次大戦後の 1921 年、当時のアメリカ大統領ハーディングがワシントン会議でおこなった軍縮提案に対し、各国政府が自国の軍縮には消極的で他国に軍縮を要求する傾向を批判し、そのような「国家エゴ」を放棄して「世界民」になろうと訴えました。第二次大戦後の 1950 年には、日本が軍事基地を持つことは戦争放棄をうたった日本国憲法に抵触すると反対して「非武装・非交戦」の日本国憲法九条を守る立場を表明、また再三にわたって各国がおこなっている核実験の即時停止を訴え、1971 年に没するまでの生涯を平和のためにささげました。

同時に彼女は冷戦体制の下にあっても世界のどの国とも敵対関係を持たないことを主張、平和外交により核戦争の危険から世界を救うことを訴え続けました。「わたくしの敵はただ戦争だけです」と語り、世界が一つになる道が困難であっても「わたくしは永久に失望しない」と未来に希望を託したことは、没後 38 年を迎えた今こそあらためて世界の人びとの希望として語られるべきではないかと考えます。

私たちは、あなたの「核兵器のない世界」への希望が、新たな核兵器開発や保持を否定するだけでなく地球上にあるすべての核兵器の廃絶に向かうものであることを期待するものです。世界には今なお 2 万発以上の核兵器が存在し、貴国はその少なくない部分を保有しています。どうか勇気を持って自国の核兵器廃絶をすすめてください。私たちは、2010 年 5 月開催予定の核不拡散条約 (NPT) 再検討会議を、核兵器全面禁止廃絶条約締結のための具体的一歩を踏み出す場にすることこそ、かつて平塚らいてうの求めた「戦争のない世界」実現の唯一の道であることを信じ、この方向に向かってあなたがいつそう奮闘されることを心から訴えて、日本からのご挨拶とさせていただきます。

2009 年 11 月 12 日  
NPO 法人平塚らいてうの会  
会長 米田佐代子